

早稲田界限、箱根山と早稲田大学を訪ねる

東京メトロ副都心線 西早稲田駅 北改札口前（1、2番出口側改札）集合・出発

早稲田大学 早稲田キャンパス内で解散予定 約4.5km 最寄り駅は東京メトロ東西線 早稲田駅

1. **東京メトロ副都心線 西早稲田駅** 2008（平成20） 副都心線開通時に開業。
2. **明治通り（環5）** 1927（昭和2）の都市計画に基づき、東京初の環状道路となる環状5号線として整備された。明治神宮外苑と明治神宮（内苑）の間を通り、明治神宮表参道を横切ることから明治通りと呼ばれるようになったらしい。また、戦後の一時期（1955～68（昭和30～43））には、渋谷～池袋の明治通りをトロリーバス102系統が走っており、早稲田通りとの交差点などはロータリーになっていた。
3. **諏訪通り** 馬場下町交差点から小滝橋交差点までの通りの通称。早稲田通り高田馬場駅付近の渋滞緩和のため延伸されることになり、現在、JR・西武新宿線との立体交差化工事と、高田馬場四丁目での拡幅整備が進行中。当初は陸橋の計画だったが、近隣住民の反対でトンネル式に変更された。立体交差部分は2024年度末に開通予定。
4. **諏訪神社** 弘仁年間（810～824）の創建と伝えられ、大国主命・事代主命を祀ったのがはじまりとされる。かつては付近一帯が神社にちなみ諏訪町と呼ばれていた。現在では諏訪通りや諏訪町交差点などに名を残している。徳川家の鷹狩と深いつながりを持ち、絵馬などが保管されている。古来より眼病・諸病に靈験があるとされる地下霊水が湧き出している。
 - 810～824 弘仁年間に創建。
 - 1469（応仁3） 太田道灌が社殿を造営。
 - 江戸時代初期 徳川義直（尾張徳川家初代）が信濃国の諏訪神を勧請、合祀。諏訪神社と改称。
 - 1624～44 寛永年間に徳川家光（3代将軍）により社殿が造営される。
徳川家綱（4代将軍）が鷹狩りに際して鷹を奉納。以後、将軍の老鷹や鷹狩りの絵馬が奉納された。
 - 1764～72 明和年間、徳川家治（10代将軍）が祭神を江戸城内の紅葉山及び吹上（浜離宮）へ遷座。
 - 1835（天保6） 社務所から出火し、神庫・末社などが焼失。
 - 1871（明治3） 社殿を修復。
 - 1882（明治15） 明治天皇が同神社から戸山ヶ原の近衛隊射的場開場式、射的砲術を天覧。以来、社殿に菊のご紋を戴く。
 - 1980（昭和55） 江戸時代後期の旧社殿が老朽化したため、新社殿に建て替え。
5. **玄国寺** 1601（慶長6）創建といわれる。諏訪神社の別当寺でかつては同社と一体だった。庫裡の建物は岩倉具視（1825～83（文政8～明治16））の麹町旧邸の一部を1926（大正15）に移築したもの。元々は馬場先門にあった邸宅だが、岩倉の死後、皇居前広場の整備のため売却され各地を転々としていたという。元は洋風建築だったが和風に改造されたものらしい。笹りんどうの紋章がある鬼瓦は岩倉邸で使用されたものの一部。また、墓所には田植地蔵という石の地蔵を祭る堂がある。田植えの頃、この地蔵が旅僧の姿になって田植えを手伝ったところからこう呼ばれる。
6. **都立戸山公園・大久保地区（西地区）** 1954（昭和29）開園。箱根山地区と合わせた総面積は約18.7万㎡。大久保地区一帯は、江戸期は畑地だった場所。1882（明治15）に「近衛射的場」ができる。1884（明治17）に施設が拡張され、戸山が原の射撃場となった。戦後、原っぱだった場所に都営住宅が建設され、後に公団住宅、都営団地、戸山公園などになった。
新宿スポーツセンター 1984（昭和59）竣工 SRC 5F・B1F 新宿区成立35周年を記念して造られた。東京都に交渉して都立戸山公園（大久保地区内）内に建物が造られている。
7. **戸山が原射撃場跡の土塁** 明治中期に射撃場が造られた際、着弾地として高さ10mほどの土塁が西側の山手線近くに造られ、南北にも数mの高さで飛散防止の土塁が造られた。着弾地の土塁はその形状から「三角山」と呼ばれていた。戦後、三角山も含め大半の土塁は撤去されたが、戸山公園大久保地区西南端と、都営西大久保住宅及び新宿区立中央図書館南側には土塁が残されている。
- 住友不動産新宿ガーデンタワー** 2016（平成28） S・SRC・RC 37F・B2F・R1F（2～22F オフィス、24～37F 賃貸マンション「ラ・トゥール新宿ガーデン」363戸、B2F「ベルサール高田馬場」イベントホール・会議室） 同所は国鉄官舎跡地

8. 早稲田大学 西早稲田キャンパス (旧 大久保キャンパス) 戸山公園同様、江戸期は畑地だった。1879 (明治12) に洋式競馬場が作られたが、これは前米大統領グラント將軍の来日歓迎行事として競馬を開催するため。この競馬大会には明治天皇も行幸し盛大に行われた。競馬場は1884 (明治17) に上野不忍池に移転。跡地は全て実弾射撃の練習場となった。野外に土塁 (堤防状のもの) を築き、これを標的にしたものだだったため、危険と騒音などの観点から、1928 (昭和3) に東洋一のトンネル式射撃場7棟が整備された。長さ300mもの鉄筋コンクリート製の射撃場が平行して建ち、その姿は巨大なかまぼこが並ぶようだったと言われる。戦後は米軍司令部小銃射撃場となり、米軍に接収されたが、1958 (昭和33) に返還。翌年3月に国から払い下げられ、9万2,000㎡の跡地に、早稲田大学理工学部、新宿区の体育館などが建てられた。

理工学部は1908 (明治41) 創立 (日本最初の理工科として機械科・電気科を設置)。1967 (昭和42) に西早稲田から理工学部が移転して、大久保キャンパスとなり、その後も順次校舎が建設された。全体計画、51~54、56~59号館などの設計は、安東勝男・穂積信夫 (共に建築学科教授)。建築群は碁盤の目状のグリッド (3.2m、6.4m) 上に整然と配置されており、また2階デッキで連結され、8の字型の構成になっている。当初は大きな樹木は少なく幾何学的中庭だった。

2007 (平成19) に理工学部の組織改編と、副都心線西早稲田駅の完成に伴い、基幹理工、創造理工、先進理工の3学部と3研究科 (大学院) からなる西早稲田キャンパスに名称を変更。およそ130×340m、4.4haのキャンパスに、学生・教員を合わせて約1万人が活動している。なお、60・61号館は将来的には解体され、51号館西側にも中庭が造られる予定。

・**51号館** 18F・B2F 高さ65.24m 研究棟 1967 (昭和42) 竣工

建築基準法の改正 (1962) 直後に計画・建設されたもので、完成当時、旧法の高さ規制 (100尺・約31m) を超える建物は、東京ではホテルニューオータニ本館 (17F・73m・1964竣工) など、ごくわずかだった。現在の超高層ビルはほとんどが柔構造を採用しているが、この建物は剛構造を用いており、地震や風力の振動に対して、極力変形・振動を抑えるものとなっている。建設資金の節約のため、今より細い鉄骨を用い、柱と梁の間に斜材を入れて耐震構造としているが、中央に斜材を入れると室内からの視界が悪くなるため、上下4ヶ所に斜材を入れている。また、この建物のエレベーターは、霞が関ビル (1968竣工) の試験機だったと言われる。また1994年に2・3階部に学生ラウンジが新設された。

・**52号館** 3F・B1F 教室棟 ・**53・54号館** 4F・B1F 教室棟

建物中央から四つ葉型に教室が広がる。各教室は建物中央側が前方で、光が後方から来るため黒板が見やすい。建物中央に通路、階段を集め、耐震壁で中央部を固めている。ここから床板を四方に広げているため、開口部が非常に大きい。

53、54号館は解体して建て替え、52号館は保存されこれを跨ぐ形で高層化される予定。9F・B2F 2029年竣工予定。

・**56号館** 5F・B1F 地上は物理・化学実験室と教室。地下は学生食堂。地下鉄副都心線西早稲田駅に接続。

・**57号館** 2F・B1F 1階は製図教室、2階は約400人収容の大教室×2とホワイエ、地下は生協。

52、53、54、56、57号館は、1963 (昭和38) 竣工

・**58号館** 3F ・**59号館** 4F 共に実験棟

両棟の1~2F中央には吹き抜けがあり、大型実験機材が利用できる。2032年に新59号館が竣工予定。

・**60号館** 3F・B1F ・**61号館** 5F・B1F 共に実験・研究室棟

現在の58、59、60、61号館は、1965 (昭和41) 竣工。

・**55号館 N棟・S棟** 9F・B1F 研究棟 設計：鈴木恂 (早大芸術学校教授) 1993 (平成5)

2棟の間には吹き抜けアトリウムがある。微妙に角度が着いた柱群は、大隈講堂の時計塔に軸線を合わせたもの。

・**62号館** (ハイテクリサーチセンター) 2F・B3F E棟：1997 (平成9) W棟：1999 (平成11)

設計：古谷誠章 (建築学科教授) 公園隣接地のため、高さが規制されたため、地下が3階ある。建築的には玄関部分の片持梁の通路が凝っている。

・**63号館** 7F・B1F 2008 (平成20) 新教室・研究棟 基本計画・監修：古谷誠章 設計：久米設計

以前は軟式テニスコートだった。新学生食堂などが入り、学生の新たな活動拠点となっている。また、この建物の完成により、キャンパス西側の回遊路がほぼ完成した。

・**タリーズコーヒー早大理工店** 2009 (平成21) 設計：古谷誠章 (建築学科教授)

55号館と明治通りの間の敷地内に建設。外部の人の利用も可。既存のケヤキを生かした設計になっている。

・**65号館** 5F・B1F 1979 (昭和54) 化学系研究棟 地下はサークル室等

・**66号館** (ロバートJシルマンホール) 明治通り沿いに建てられたオフィスビルを購入して、2002 (平成14) 開所。

9. 尾張名古屋藩・徳川家下屋敷 現在の新宿区戸山1～3丁目にあった広大な大名屋敷。戸山公園箱根山地区、戸山ハイッ、学習院女子大学、戸山高校、早大戸山キャンパス、国立国際医療センターを含む地域にあたる。

その昔は、源頼朝の武将・和田左衛門尉義盛の領地で、和田村と戸山村の両村に属していたことから「和田外山」と呼ばれていた。1668（寛文8）に**尾張徳川家（尾張藩）下屋敷**となる。総面積は約136,000坪（約448,800㎡）に及び、「戸山荘」と呼ばれるようになった。回遊式築山泉水庭は元禄年間（1688～1703）に完成。庭園の南端には余慶堂という御殿を配し、敷地のほぼ中央に大泉水を掘り琥珀橋と呼ばれる木橋を渡し、ところどころに築山・溪谷・田畑などを設け、社祠堂塔・茶屋なども配した25の景勝地が造られていた。なかでも小田原宿の景色を模した町並みは、東海道五十三次を思わせ、他に類のない景観を呈していたと伝えられる。その後、一時荒廃したが、寛政年間（1789～1800）の初めに第11代家斉の来遊を契機に復旧された。安政年間（1854～1859）に再び災害にあい、復旧されることなく明治維新を迎えた。

維新後は、廃藩置県に伴い兵部省の管理となり、陸軍が庭園として管理した。1873（明治6）に陸軍兵学寮戸山出張所が置かれ、翌年、陸軍兵学寮本部が和田倉門外から戸山に移り、**陸軍戸山学校**となる。戦術科・射撃科・体操剣術科の3種があり、各隊から毎年定期的に士官・下士官を召集した。また陸軍軍楽学校も置かれた。この頃から、築山（玉円峰）は箱根山（函根山）と呼ばれるようになった。

第二次世界大戦では空襲でほとんどの建物が焼失。昭和20年9月10日に陸軍戸山学校は廃止され、戦後は国有地となる。戦争直後、都内が住宅不足になったため、東京都は戸山学校跡地に木造住宅を造り、戦災者や引揚者などを入居させた。

10. 都営戸山団地（戸山ハイッ） 1949（昭和24）設置。都内の団地の原点ともいわれる。1968～76（昭和43～51）にRC造の中高層住宅に建て替えられて現在に至る。全35棟。都営住宅の他に、東京都住宅供給公社の分譲住宅もある模様。

11. 戸山公園・箱根山地区（東地区） 国から東京都に敷地が払い下げられ、1954（昭和29）に開園。

毎年10月の体育の日には、穴八幡宮の伝統行事である流鏝馬（新宿区指定無形民俗文化財）が開催される。

12. 箱根山 戸山荘時代には玉円峰と呼ばれた築山。山手線内で一番標高が高い。山頂にある水準点の標高は44.6m。

箱根山の階段 東斜面 49段 北斜面 53段 西斜面 50段

旧陸軍戸山学校将校集会所 戸山教会・戸山幼稚園の基礎部分の半地下構築物

茯苓坂（ぶくりょうざか）跡 戸山荘（尾張徳川家下屋敷）内にあった坂。箱根山の解説パネル内に記載あり。

早稲田口近くの階段 8段（4・4段）

13. 蟹川 太宗寺境内からの流れと歌舞伎町の現在のハイジア付近にあった池を水源とし、新宿文化センター付近で合流し、職安通り下、戸山ハイッ、早大戸山キャンパス、穴八幡宮東側、早稲田鶴巻町を流れ、西早稲田の豊橋付近で神田川に流れ込む。現在は全て暗渠化されている。また「大久保」の地名は、蟹川流域が大きな窪地だったことからと云われている。なお「加二川」の字を用いる外苑東通り沿いの弁天町近辺からの流れも早稲田鶴巻町で合流していた。

14. 旧鎌倉街道 中道 西向天神下を通る道は昔の鎌倉街道中道（なかつみち）だと言われる道。鳩森八幡神社方面から新宿御苑内を抜け、西向天神下を通り、尾張藩下屋敷内を抜け、亮朝院前を通り、面影橋を経て氷川神社前、南蔵院方面へ至る。奥州道ともよばれ、鎌倉鶴岡八幡宮を起点に、大船、戸塚、二俣川、二子玉川、世田谷、新宿を経て、豊島区の鬼子母神から王子を抜け、北は奥州（現在の東北地方）まで続いていたという。

15. 早稲田大学戸山キャンパス 文学部、文化構想学部（旧第一文学部・第二文学部）、新学生会館、早稲田アリーナがある。

31号館（教室棟）1962（昭和37） **32号館**（教室棟）1948（昭和23） **36号館** 1999（平成11）

38号館（カフェテリア・図書館）1992（平成4） 設計：菊竹清訓 **39号館**（研究棟）1992（平成4）

33号館 高層棟 16F・B1F 2013（平成25） **低層棟** 7F 2014（平成26） 設計：KAJIMA DESIGN

玄関ホール内のモザイクタイルのローマ数字年号（MCMLXI）は、1961年を表している（M=1,000、C=100、L=50、X=10）。

旧33号館 1962（昭和37）竣工 設計：村野藤吾 ゲート状になった低層棟と、やや細身の高層棟のバランスが良く、美しいプロポーションを見せるモダニズム建築。校舎に囲まれた中庭、シンボル性のある高層校舎など、良質なキャンパス空間を見せる。耐震性の不足、設備の老朽化、研究室面積の不足等により2010年に解体され、建て替えられた。旧33号館のモザイクタイル・レリーフ・ガラス窓などが保存され、新33号館に設置されている。

16. 早稲田大学 新学生会館 (30号館) 11F・B1F 2001 (平成13) 竣工 早大正門前にあった二つの学生会館が活動家の拠点となっていたこと、また学生数の増加等により手狭になり老朽化もしていたことから、戸山キャンパスに計画された。多数の部室を備え、茶室、能舞台、撮影スタジオ等も備える。学生会館としては日本最大級といわれる。敷地は尾張徳川家下屋敷の庭園の北東部で「鳴鳳溪」と呼ばれた溪谷があった場所。建設時の発掘調査では、尾張藩下屋敷内にあった「龍門の滝」の石組みなども発掘された。

17. 早稲田アリーナ (37号館)・戸山の丘 スポーツミュージアムや学習スペースなども併設した多機能型スポーツアリーナ。B2F・1F部分にアリーナを配置し、屋上にあたる地上部には緑化された丘状の広場が設けられた。2019 (平成31) 完成
旧 記念会堂 1957 (昭和32) 竣工。入学式、卒業式などでも利用され、1964 (昭和39) の東京オリンピックの際には、フェンシング競技場としても使用された。老朽化、建て替えのため、2015 (平成27) 夏に解体。

18. 穴八幡宮

1062 (康平5)、源義家が奥州からの凱旋の途中、この地に兜と太刀を納め、八幡神を祀ったのが始まりとされる。

1636 (寛永13) ここに的場が造られ、八幡宮を守護神とした。1641 (寛永18) に別当の放生寺を建立するため、僧が南側の山裾を切り開いていると横穴が見つかり、中から金銅の阿弥陀如来像が現れ、以来「穴八幡宮」と称するようになった。3代将軍徳川家光は、この話を聞いて穴八幡宮を幕府の祈願所・城北の総鎮護とした。その後、歴代将軍が度々参拝し、8代将軍徳川吉宗は、1728 (享保13) に世継の抱瘡平癒祈願のため流鏑馬を奉納し、その後も世継誕生の際や厄除け祈願として奉納された。江戸庶民の信仰を集め、特に蟲封じの祈祷は有名。また冬至の「一陽来復」のお守りでも知られる。

第二次大戦の戦災で建物の多くを焼失したため、1961 (昭和36) から御鎮座900年事業として本殿再建工事を開始。1989 (平成元) 幣殿、拝殿を再建。更に1998 (平成10) に随神門を室町時代の様式で再建。2015 (平成27) には鼓楼が完成。

高田八幡男坂 47段 (下から14・33段) **石坂** (北参道) 35段 (下から3・2・10・12・8段) 2000 (平成12) 竣工

高田八幡女坂 64段 (下から8・4・16・6・21・9段) **高田八幡女坂** (公園側) 61段 (下から8・17・9・9・9・9段)

放生寺 (ほうじょうじ) 1641 (寛永18) に穴八幡の別当寺として創建された。捕獲した魚や鳥獣を野に放し、殺生を戒める放生会 (ほうじょうえ) で知られ、虫封じの御利益もあるとされる。創建当時は穴八幡境内に放生池があったが、明治期の神仏分離で池は放生寺の管轄となり、その後1920年代に埋め立てられてしまった。放生会は戦時中に中断してから約40年間行われなかったが、現在は本堂脇の池で体育の日に行われている。

19. 早稲田通り・八幡坂 もともと穴八幡が高田八幡とも呼ばれていたことにちなむ。昔の道は急坂で、坂の上下に「立ちん坊」が立ち、荷車の暴走を止める手助けをして。賃金をもらっていたと伝えられる。

20. 馬場下通り・南門商店街

21. 小野梓記念館 (27号館) 2005 (平成17) 早大発展の礎を築いた小野梓を記念した教室棟。法務研究科 (法科大学院) が使用。2、3Fには模擬法廷教室などがあり、4Fは学生自習室。B2Fは約200人収容の小野記念講堂、1Fには早大グッズ店舗、インフォメーションがある。大隈講堂や旧図書館と共に正門前広場に面していることから、高さを旧図書館に合わせ、屋根は緑青銅板葺き。また、早稲田界限がミョウガ栽培でも知られたことから、楕円筒形の避難階段の周囲にはミョウガが植えられている。

22. 大隈記念タワー (26号館) 16F 2006 (平成18) 早大創立125周年を記念して第二学生会館跡地に建設された。公共経営研究科などが入居。10Fの125記念室では早大の各種資料などの展示が行われている。15Fは展望レストラン、16Fは校友サロン。大隈候の人生125才説に基づき、次の125年を意識して大隈講堂時計塔の倍の高さ250尺 (75.75m) で建設された。

23. 大隈講堂 (21号館) 1927 (昭和2) 設計: 佐藤功一・佐藤武夫 重要文化財。

チューダーゴシック様式の外観デザイン。内部の大講堂は卵形の空間で、二次曲線を多用しており表現派的と言われる。大講堂1,123席、小講堂301席。大隈重信侯が人生125年説を唱えていたことに因み、時計塔の高さが125尺とされた。東大安田講堂がシンメトリーなゴシック様式で重厚なのに対し、片側に塔を寄せ、世俗建築で使われることが多いチューダーアーチを用いることで、軽快で潇洒な建築としている。また、威圧感をなくしつつ立体的に見せるため、キャンパス軸に対して斜めに建てられている。塔は上部になるほどやや細く造られ、高さ感が強調されている。また頂部はW型にデザインされている。門扉などには大隈家の家紋「裏梅剣花菱」や「WASEDA」の文字があしらわれている。耐震補強、バリアフリー化、設備類の更新を含む修復 (2007年) の後、国の重要文化財となった。

大隈庭園に面した側にはもう一つの大隈重信像 (朝倉文夫作) があり、これが最初にキャンパスに設置された大隈像だが、大礼服姿の立像で大学に相応しくないと言われ、2代目大隈像ができた後、ここに移設された。

鐘は米国ボルティモアのマクレエン社からパナマ運河を経由して運ばれたもの。大小4つの鐘があり、ロンドンのウエストミンスター寺院と同じメロディで、毎日8・9・12・16・20・21時の6回鳴らされている

24. 早大通り 戦後、早稲田鶴巻町界隈の土地区画整理の際に建設された道。中央分離帯にケヤキが並ぶ。**25. 早稲田エルドラド** 設計: 梵寿綱 1983 (昭和58) アールヌーヴォー様式でデザインされたマンション。

ガウディを思わせる装飾が異彩を放っており、西早稲田のガウディ建築などと言われている。

26. 大隈庭園・大隈会館 江戸時代には彦根藩井伊家や高松藩松平家の下屋敷の庭園だったところで、その庭園は江戸の面影を残す和様四条家風だった。1874 (明治7) に早稲田大学創始者である大隈重信の別邸となると、大隈は自然を活かした文人風 (明治期の京都風の庭) に変えた。東京で京都風の庭園は大隈が初めてと言われる。大隈の生前には、この庭園に温室を作り、日本で最初にメロンを栽培し、品評会も開催した。1922 (大正11) に大隈重信が没すると、遺志によって早稲田大学に庭園と屋敷が寄贈された。1945 (昭和20) には、空襲で廃墟と化したのが、ほぼ普通の景観に復元され、今日に至っている。園内には大隈夫人の銅像もある。1967年から平日などに公開されている。約1万坪

- **完之荘** (かんしそう) 飛騨から1952 (昭和27) に移築した約800年前の民家。小倉房蔵 (日石社長) が寄贈。
- **旧大隈重信邸門衛所** 1902 (明治35)

27. 早稲田大学 早稲田キャンパス (旧 西早稲田キャンパス)

1882 (明治15) 東京専門学校として創立。1902 (明治35) 早稲田大学となる。明治、大正期は木造校舎が中心だったが、昭和初期からRCの校舎を順次建てていった。戦災で多くの建物が焼失したが、修復や建て替えをして現在に至る。現在も周辺の土地を徐々に購入して、キャンパス空間の拡充を図っている。平時は基本的に開門され自由に出入り可能で、街と共にある大学として、門や塀のない大学だったが、学生紛争や諸々の事件の防止のため、近年は柵や門が設置されている。なお、2007 (平成19) までは西早稲田キャンパス (本部キャンパス) と呼ばれていたが、副都心線西早稲田駅が久保キャンパスに隣接して完成し、名称の混乱を避けるため、早稲田キャンパスに変更された。

- **1号館** (入学センター・現代政治経済研究所・早稲田歴史館)
1935 (昭和10) RC造 設計: 桐山均一 (早稲田大学営繕課)
- **會津八一記念博物館 (旧図書館・2号館)** 1925 (大正14) RC+S造 2F・B1F 設計: 今井兼次、桐山均一、内藤多仲
東京都選定歴史的建造物 1990年に新図書館 (総合学術情報センター) が完成した後、改修工事を経て1998 (平成10) に博物館となった。大階段正面には横山大観の15尺の円形壁画「明暗」が飾られている。會津八一 (1881~1956) は東洋美術史研究者、歌人・書家として知られた教授。
- **3号館** (政治経済学部) 2014 (平成26) 14F 1933 (昭和8) に竣工した旧3号館の南半分を復元し、メインの軸線沿い低層部の景観の保持を試みている。
- **早稲田大学国際文学館・村上春樹ライブラリー (4号館)** 1969 (昭和44) RC造 5F 隈研吾がリノベーションを行い、2021 (令和3) 10月開館。改築費用約12億円は早大OBの柳井正 (ファーストリテイリング代表取締役会長) が寄付した。

- ・ **坪内博士記念演劇博物館（5号館）** 1928（昭和3） RC造 3F・B1F 設計：今井兼次 新宿区有形文化財 早大教授で小説家・劇作家の坪内逍遙（1859～1935）の古稀を記念して建てられた。彼の発案で16世紀のロンドンの劇場・フォーチュン座を模しており、正面中央は劇場の舞台、2階は舞台セットの一部。両翼は栈敷席をイメージしている。本来のフォーチュン座は木造ハーフティンバーだったが、ここではRC造としてハーフティンバー的な装飾を施している。正面上部に記されたラテン語はグローブ座入口看板に記されていた言葉で“Totus Mundus Agit Histrionem”「全世界は劇場なり」という意味。シェイクスピアの喜劇「お気に召すまま」1623年出版、から「この世は舞台、ひとはみな役者」の一部。
- ・ **6号館**（教育学部） 1935（昭和10） RC造 4F ・ **7号館**（共通教室） 1950（昭和25） 6F
- ・ **8号館** 新法学部棟 2005（平成17） S+SRC造（一部RC造） 12F・B2F 設計：日建設計 南門商店街を歩いてキャンパスに近づく旧8号館の南端部が、街並みの中に見えていたことに配慮して、新棟でも南側部分の外壁、屋根を以前と同じものにして、商店街から同じ見え方になるようにしている。旧8号館は1931（昭和6）竣工。
- ・ **9号館**（共通教室・政治経済学部） 1969（昭和44） 9F 以前、水稲荷神社があった場所に建てられた校舎。
2023年11月解体開始
- 新9号館**（仮称E棟） S・SRC・RC・木 15F・B2F・RF 設計監理：山下設計 施工：戸田建設 2027年度供用開始予定
- ・ **10号館**（共通教室） 1952（昭和27） 大隈講堂－大隈重信像の軸線の突き当たりにある校舎。3階デッキから早稲田通り側に抜けることが出来る。
- ・ **11号館** 新商学部棟 2009（平成21） 以前の玄関部分をレプリカで復元利用している。
（12、13号館） 旧11・12号館の場所に新11号館を、旧13・14号館の場所に新14号館を建設したため、現在欠番。
- ・ **14号館**（社会科学部・教育学部） 1998（平成10） 西早稲田キャンパス初の大型校舎。田の字型に大教室が配され、上階の研究室フロアには中央部に光庭がある。
- ・ **15号館**（共通教室） 1966（昭和41） 外観のところどころがモダニズム的にデザインされている。
- ・ **16号館**（教育学部） 1967（昭和42） 東日本大震災で内部の間仕切壁に亀裂が入ったりしたので、耐震補強を実施。外壁のところどころに斜材が入っている。
- ・ **大隈重信像** 1932（昭和7） 創立50周年と没後10周年を記念して立てられた。朝倉文夫作。

28. 東京メトロ東西線 早稲田駅 1964（昭和39）に高田馬場～九段下の完成時に開業。

【その他】

29. 観音寺（慈雲山大悲院観音寺） 真言宗豊山派 1682（寛文13）創建

現在の堂は1996（平成8）竣工 設計：石山修武（早大建築学科教授（当時））

30. 早大西門通り 西早稲田交差点から早稲田大学西門にかけての150m程の商店街。飲食店、コピー屋、帽子店等が並ぶ。

グリーンハウス 1929（昭和4）築の木造2Fアパート

31. 環状4号線（外苑西通り） 港区から江東区に至る環状の都市計画道路。計画延長約29kmのうち約15kmしか完成していない。当初は、富久町西交差点から西早稲田交差点にかけては、国立国際医療センター付近を通る直線的な計画だったが、その後、都市計画変更がされ、若松河田駅付近から団子坂、若松町交差点、夏目坂通り、早稲田通りを通るルートになった。早稲田通り～新目白通りの区間は2008年頃に開通。

32. グランド坂 坂下の総合学術情報センターの場所に、安部球場（旧戸塚球場）があったことから。戸塚球場は1949（昭和24）早大野球部育ての親、安部磯雄教授の逝去により安部球場と改称し、1987（昭和62）まで存続した。

グランド坂から上る階段1 カーブ 15段（下から5・3・7段） **グランド坂から上る階段2** 直 6段

33. 高田馬場跡 1636（寛永13）、徳川三代将軍家光により旗本達の馬術の訓練や流鏑馬などのために造営された。東西655m、南北55mだったという。現在は住宅地になっているが、道路・宅地のパターンに痕跡が見られる。呼称は、この地が家康の六男で越後高田藩主だった松平忠輝の生母、高田殿（茶阿局）の遊覧地であったためと言われる。しかしそれ以前から、この一帯が高台で高田と呼ばれており、その名を冠したとの説、その両方との説もある。もとは「たかたのばば」だったが、次第に「たかだのばば」と濁って呼ばれるようになり、現在は地名、駅名共に「たかだのばば」。甘泉園の南側を東西に走る茶屋町通りは、旗本たちが馬術や弓の鍛錬を高田馬場で行う際、弁当や菓子の持参が許されなかったため、近所の農家が茶店を開くようになったのがはじまりといい、往時は雑司が谷の鬼子母神に詣でる人たちが行き交い賑わったという。

高田馬場の決闘 1694（元禄7）年2月11日に起きた伊予国西条藩の家臣たちによる決闘。中山安兵衛（堀部安兵衛）がこの決闘に助太刀して名を挙げた。後の講談・逸話・芝居が多く、事実関係にはさまざまな説がある。また、夏目坂下の小倉屋酒店には、堀部安兵衛が仇討ちに駆けつける際、のどが渴いたのでここで榎酒を飲んだという伝説がある。

34. 夏目坂 漱石の随筆『硝子戸の中』（大正4）によると、漱石の父でこの辺りの名主だった夏目小兵衛直克（こへえなおかつ）が、自分の姓をつけて呼んでいたものが人々に広まり、やがて地図にも載るようになったという。1936年に現在の幅に拡幅。

小倉屋酒店 1678（延宝4）創業。高田馬場の決闘（1694（元禄7））で、堀部安兵衛が助太刀に駆けつける前に酒を呑んだ際に使ったという杓が保管されている。

夏目漱石生誕地の碑 夏目漱石（本名 金之助、1867－1916（慶応3－大正5））は、牛込馬場下の名主、夏目小兵衛直克、千枝の末子（五男）として生まれた。父、直克は牛込から高田馬場一帯を治めていた名主で、公務を扱い、民事訴訟も玄関先で裁くなどしており、生活も豊かだったという。漱石は出生後すぐ里子や養子に出されたが、9才の時に生家に戻った。

35. 新宿区立 甘泉園公園（かんせんえん） 元々は徳川御三卿の一つ・清水家の下屋敷があったところで、その回遊式庭園だった。園内の湧き水がお茶に適して評判だったことから「甘泉園」と呼ばれた。また、かつて周辺が「山吹の里」と呼ばれたので、ここの泉は「山吹の井」と呼ばれた。明治時代には相馬子爵家の邸宅になったが、1938（昭和13）に早稲田大学の施設となった。1961（昭和36）に早稲田大学がキャンパスを拡張するため、水稲荷神社の境内地を購入し、代わりに甘泉園を都に売却、都立公園となった。更に1969（昭和44）には新宿区に移管され区立公園となった。名の由来となった湧き水は枯れたが、現在でも大名屋敷の回遊式庭園の面影を多分に残した公園となっている。

裏門の階段 37段（下から19・18段）

36. 水稲荷神社 941（天慶4）、藤原秀郷が冨塚の地に稲荷大神を勧請し冨塚稲荷と命名される。下戸塚村の産土神で、江戸時代前期までは戸塚稲荷と呼ばれていた。1702（元禄15）に、神木の椋の根元より霊水が湧きだし、眼病に利くとして評判となり、水稲荷神社と改名。消防関係者、水商売の人々がよく参詣した。水稲荷の別当寺は宝泉寺（西早稲田1-1）。

もともとは現在の早大早稲田キャンパス内の9号館近辺にあったが、早大のキャンパス拡張を受けて、早稲田大学と土地交換を行い、1963（昭和38）に現社地に遷座した。元の敷地内には、1780（安永9）に造られ高田富士と呼ばれた富士塚があったが、この移転の際に取り壊され、現在は甘泉園公園東側に小規模なものが再建されている。

東参道 23段（下から10・13段） **拝殿前** 5段 **西裏参道** 南向きに32段（下から14・11・7段） **北参道** 東向きに8段

37. 財団法人 早稲田奉仕園

1907（明治40）創設者ベニンホフ（アメリカンバプテスト宣教師）が来日。

1908（明治41）築地で早大生の英語聖書研究会3Lクラブを開始、早稲田鶴巻町に早大生の寄宿舎・友愛学舎を設立。

1917（大正6）信交協会（早稲田教会の前身）を設立し、総体を奉仕園と名づける。初代理事長安部磯雄。

1922（大正11）早稲田奉仕園となる。**スコットホール** 竣工 設計：原案 W.M.ヴォーリズ、実施設計 今井兼次・内藤多仲
東京都選定歴史的建造物

1942（昭和17）戦局悪化のため土地建物を早稲田大学に譲渡。友愛学舎は諏訪町の民家に移転。

1954（昭和29）早稲田大学より土地・建物が返還される。

【町名など】

喜久井町 江戸時代から続いた町方名主である夏目家の家紋「井桁に菊」にちなみ、夏目漱石の父の夏目直克が命名した町名。

戸塚町 由来には諸説あり、洪水の時にここだけ戸で支えたように水害を逃れたという故事から、町内の宝泉寺の境内に冨塚という塚があったから、白狐が住むという狐塚があったという言い伝えから、この地域に塚が多く十塚と呼ばれたことからなど、さまざまな説がある。

戸山 戸山あたりの低地はもともと和田戸と呼ばれており、一帯は和田戸氏（史料がなく詳細は不明）が治めていたという。和田戸のそばの高台を和田戸山と呼び、それが戸山の地名の起りであると推測されている。

早稲田 江戸時代初期には既に早稲田村と呼ばれていた。由来は、早稲の品種を植えた田んぼから。

早稲田鶴巻町 由来としては、小石川村の田んぼで鶴を放し飼いにしたところ、この地にまで鶴がやって来たことからとも、そのために鶴番人が置かれていたからとも言われる。同町界限では戦後、戦災復興土地地区画整理事業が行われている。

参考文献・参考サイト

『今昔東京の坂』岡崎清記、日本交通社出版事業局、1981 『江戸東京坂道事典』石川梯二、新人物往来社、1998

『東京の階段』松本泰生、日本文芸社、2007 『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』松本泰生、洋泉社、2017

『東京古道散歩』荻窪圭、中経出版、2010 『川の地図辞典—江戸・東京23区編』菅原健二、之潮、2007

東京23区の坂道 <http://www.tokyosaka.sakura.ne.jp/index.htm> 坂学会 <http://www.sakagakkai.org/>

東京の階段 DB <http://blog.goo.ne.jp/tokyostair/> 都市徘徊Blog <http://blog.goo.ne.jp/asabata/> Wikipedia